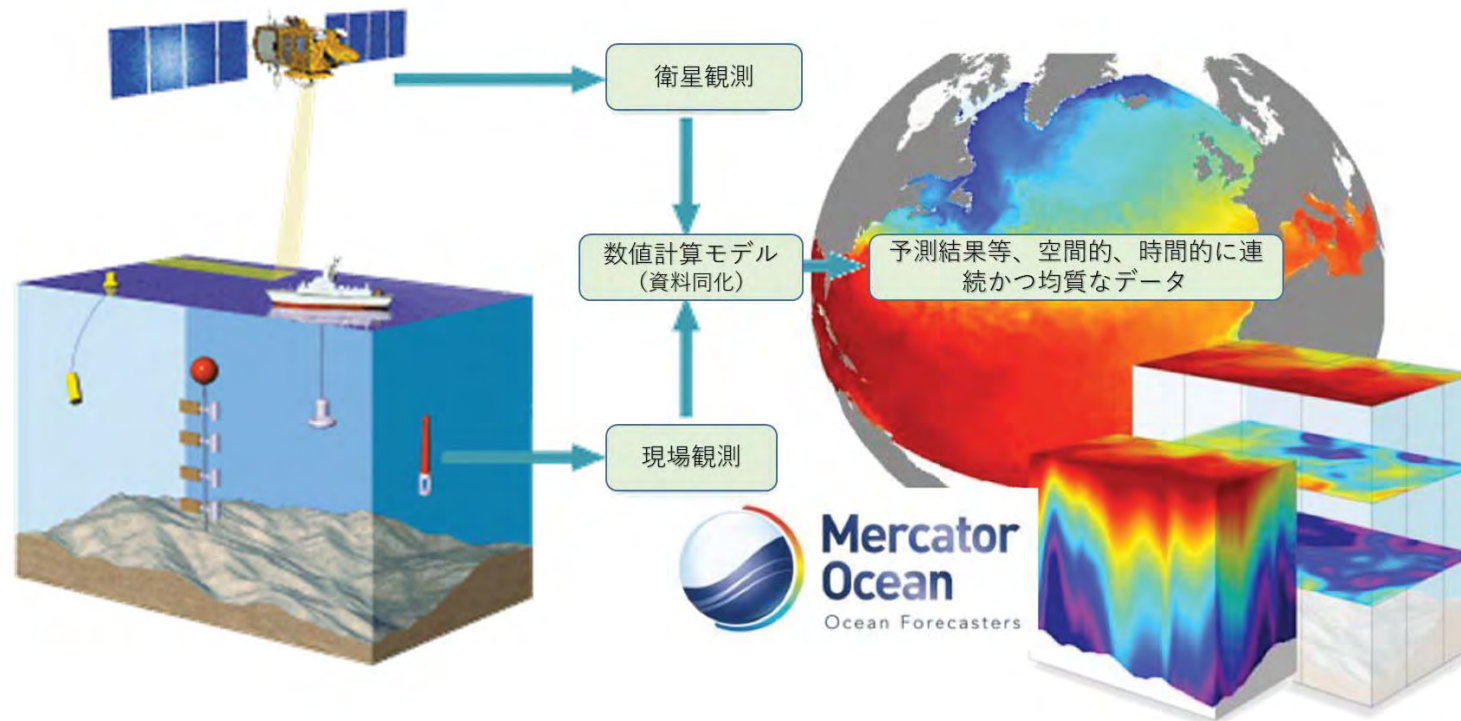


# Mercator Oceanによる海洋・気象情報の提供

- ① Copernicusプログラムの海洋における衛星データをベースとしたサービスとして運用している。
- ② 衛星観測データと現地観測データを数値モデルで結合（資料同化）
- ③ 数値モデルによる予測情報、海面下を含む時間・空間的に連続したデータの提供
- ④ 各種サービスに他の船舶情報等と複合して活用



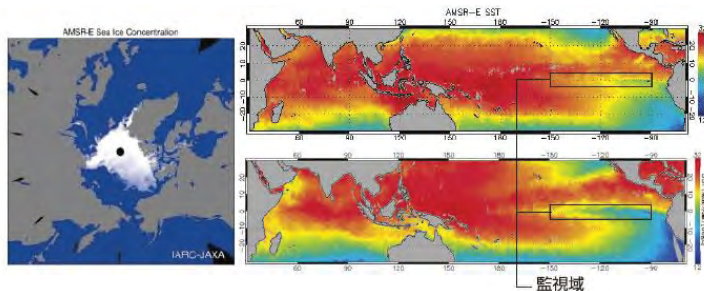
## 我が国の強みを活かした戦略的国際連携

### ①マイクロ波放射計や降水レーダ技術の活用

継続的な観測データを得るために国際的協調によるグローバルな監視体制が必要。  
また、観測体制における国際的リーダーシップのためにわが国のセンサ技術開発や継続的な打ち上げを行うことが必要。

### ②LバンドSAR技術の活用

地形変化分析によるインフラ監視等、優位なアプリケーションの海外利用展開  
30年近い長期観測成果や開発経験を活かし、長期的なデータセットを構築し、大量データ分析等に役立てる。



マイクロ波放射計による  
地球環境の継続的監視



LバンドSARによる継続的な地面変位検査



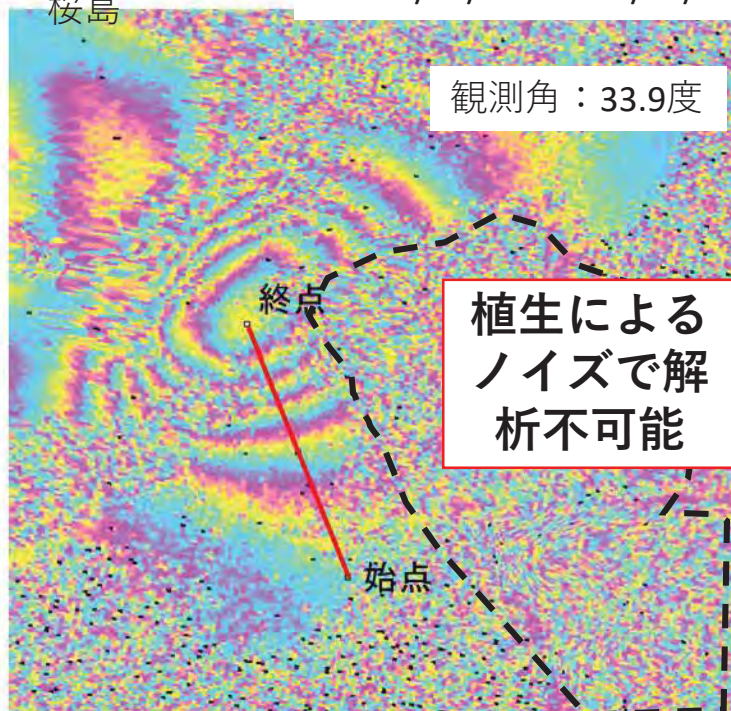
GSMaP等、国際的な  
コンステレーション体制に  
おけるイニシアチブ



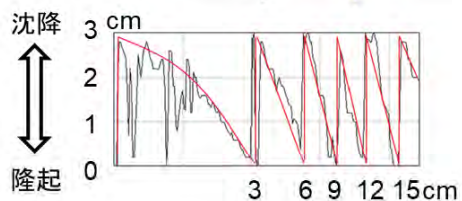
# LバンドSARとCバンドSARによる地表面変位解析の比較例

桜島

C-band (Sentinel-1A)  
2015/07/31 – 2015/08/24



Analyzed by ©RESTEC, Included ©ESA



隆起

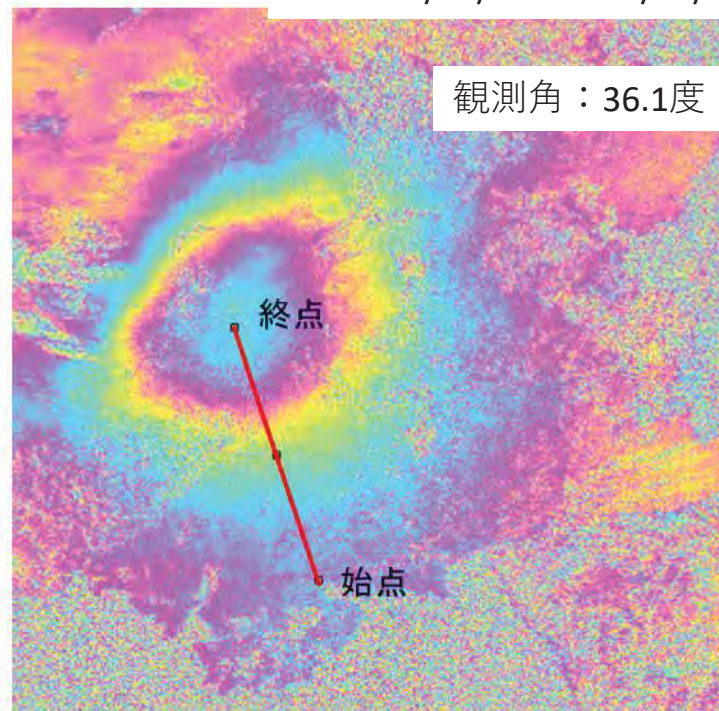
$-\pi$



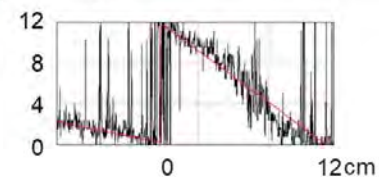
沈降

$+\pi$

L-band (ALOS-2/PALSAR-2)  
2015/08/10 – 2015/08/24



Analyzed by ©RESTEC, Included ©JAXA



## Tellus/Copernicus等プラットフォーム間の国際連携

### ①プラットフォーム保有データの共有

Tellusのさらなる利用拡大のために、海外プラットフォームとの協定によるプラットフォーム間データ交換による連携を進め、日本のデータの海外での普及とTellus上でのデータの多様性を拡大することが望ましい。

なお、Tellusの独自性を確保するための保有データの特徴づけ等の検討も重要。

### ②国産プラットフォームの海外展開

例えば、JICA等のファンドによる開発途上国支援において、Tellus等の国産プラットフォームを積極的に活用することで、日本の衛星データの貢献を推進することが重要。

